



与野本町小だより

～かしこい子 心ゆたかな子 たくましい子 助け合う子～
ニコニコ・しっかり・美しく（本町の心）

10月号

令和6年9月30日

さいたま市立与野本町小学校

続けると変わる

校長 小野 圭 司

最近、子どもたちが以前にも増してよくあいさつをしてくれるようになった気がします。子どもが校長にあいさつをするのは当たり前だと思われるかも知れませんが、そうでもありません。私の不徳とするところかも知れませんが、子どもたちもだいぶ、校長に慣れてきたのではないかと考えています。子ども側からすると、「どんな校長先生だろう」「あいさつをすると返してくれるのかなあ」など、しばらくはきっと観察中だったのでしょうか。子どもたちなりに、私の表情や対応などから私の人となり分かり、それが徐々にあいさつに現れてきたのではないかと考えます。

要は、「続けないと変わらない」ということです。私が担任をしていた時には、例えば、あいさつ一つにしても、できないのならばやり直しをさせるなどして、すぐに変わることを子どもたちに求めていました。いわゆる「やらせていた」のです。しかし今は、「もしかすると自分の声が聞こえなかったのかなあ」「体調や気分が悪いのかなあ」など、相手には相手の都合や状況があるのではないかと考えるようになりました。

このように考え、1学期を終えて2学期となり、やっと成果が現れてきたように思います。以前の私ならば表面的なあいさつに満足し、本質的なあいさつができるように導くことはできなかったのではないかと考えています。だからといって今は本質的なあいさつができるように導いているのかと問われると自信はありませんが・・・今の私は、まずは続け、相手が変わるのを待つことを心掛けています。

本校で続けていることをもう一つ。参集型の集会です。コロナ禍では、感染防止のため参集型の集会を控えていたようですが、この4月からはできるだけ全校の子どもたちが集まるようにしています。その目的は、時と場に応じた行動をとれるようにするためです。4月当初は久しぶりの参集でしたので、私が話を始めてもなかなか静かにならず落ち着かない様子でした。それが回を重ねるごとに、徐々に時と場に応じた行動をとり、落ち着いた様子となってきました。やはり経験を重ねることはとても重要です。

また、高学年の子どもたちがよい手本を示してくれているおかげもあります。教員も全校の子どもたちが参集している場で、高学年の子どもたちのよい行動を褒めることは教育的価値が高いことだと考えています。低学年の子どもは高学年の子どもに憧れを抱き、高学年の子どもは高学年としての自覚をもつようになります。先日も縦割り活動である「ニコニコタイム」を実施しましたが、1年生から6年生までの子どもたちが交流する中で、先ほどと同様の憧れや自覚がここでも育まれていっていることを感じました。

今後もこのような取組を続け、子どもたちがよりよく変わるように、また、成長するように本校教職員一丸となって進めてまいります。また、10月19日（土）には運動会を予定していますので、その折りにあいさつや時と場に応じた行動、高学年としての自覚などが高まっている様子を披露できればと考えています。どうぞ楽しみにしててください。